



# やっぱりおいしい生活クラブ牛乳 「やくそく便」 はじまります



2/4 札幌エルプラザ



「消費なくして生産なし」と熱く語る  
サツラク農業協同組合 美馬 裕隆 部長

4月から始まる「やくそく便」のスタート集会を開催しました。サツラク農協の美馬さんより、生活クラブ牛乳の価値や生産現場の現状、課題についてお聞きしました。私たちが選び共につくり続けてきた低温殺菌牛乳は、飼料や飼育環境が明らかで、生乳の栄養や風味が活きている、日本では生産量がごくわずかな牛乳です。このすごい低温殺菌牛乳を特別なものではなく日常の選択へ。その一歩が「やくそく便」です。利用を約束することは、生産者と私たち両方の安心につながります。未来へつなぐ一歩として、ぜひ登録し、生活クラブ牛乳を利用していきましょう。  
〈本部消費員会〉

## 支部でも説明会を開催



清田

ホワイトボードやパソコンを使い、登録方法や注意点をわかりやすく伝えました



手稲

21人が参加して消費委員長の説明を聞きました

## INDEX

委員会活動紹介  
原発ゼロ・市民エネルギー委員会 ..... 3

報告 2025年度 後期生産者交流会 ..... 4~5

新規組合員歓迎会 ..... 6  
恵庭支部 / 豊平支部

2025年度 生活クラブ福祉基金助成先団体紹介 ..... 7  
NPO 法人 たすけ愛ふくろう清田 / NPO 法人 陽向ほっこ

# 生活クラブ Wind



## 組織活動

3月の支部大会が終わると、各支部では26年度の活動が始まります。25年度は多くの支部が拡大に苦戦しましたが、私たちの消費材を安定供給するためには多くの仲間（組合員）が必要で、4月には生活クラブを発信するカーチャラシがみなさんに届きます。友人・知人へ渡すだけでなく近隣へポスティングするなど、積極的に生活クラブをお知らせください。

26年度も各支部で工夫しながら、展示説明車あみーかの運行やイベントを開催するので、組合員みんなで拡大に力を入れましょう。



## 消費委員会

3月注文4月配達から、牛乳と豚肉の班口ツトが無くなりました。これからは班組合員も個人で注文します。

生活クラブの豚肉は「一頭買い」が基本です。生産者から豚を一頭単位で買い取り、無駄なく利用しています。市場に左右されにくく価格が安定しているのも特長です。生産者の継続的な飼育を支え、食の安全と持続可能な消費につながっています。

パランスよく利用できるよう、豚肉ブロックセットと豚肉スライスセットを用意しました。価格もちよつとお得です。飼料や飼育環境にもこだわった、おいしい豚肉です。これからも利用していきましょ。



## 石けん運動委員会

フッ素加工のフライパンや食品包装紙、泡消火剤などに使われてきた人工的な化学物質PFAS（有機フッ素化合物）。その一部は国際条約によって製造・使用が禁止されています。永遠の化学物質とも言われ、人体に蓄積し、自然界では分解されず環境中に留まります。

千歳市にラピダス（鉛）の半導体工場が誘致されたことを受け、昨年、安平川と千歳川で他団体と共に独自検査を実施しました。水質検査結果は国の暫定目標値を大きく下回りましたが、より厳しい国際基準の導入や情報公開などを、今後自治体に訴えていきます。



## 原発ゼロ・市民エネルギー委員会

チエルノブイリ原発事故から40年、今年のチエルノブイリデー市民集会は4月19日に、かでの2・7で開催します（p.8参照）。福島などからの現状報告に続いて、3・11後に原発運転差止めの判決を出した樋口英明元裁判長の「原発を動かしてはいけない理由」と題した講演会、集会后にはパレードもあります。みんなで泊原発再稼働阻止の声をあげましょう！

組合員のみなさんに呼びかけた「福島・栃木の子どもたちの保養支援カンパ」により、今年も保養活動がスタートします。ご協力いただきありがとうございました。



## 2月の理事会から

● 26年度理事会体制が決定しました。

● 第1回総代選挙管理委員会が行われ、選挙管理委員長決定などの報告がありました。

● 4月18日、今年度の委員研修として「生活クラブ2030行動宣言の生活クラブの考え方について」「拡大の意義について」の講演会、グループワークを行うと確認しました。

● 26年度福祉基金助成団体決定の報告がありました。

● 生活クラブ運動グループと生活クラブ共生会は、持続可能な北海道の食と二次産業の実現に向け、生産者の声を反映した政策提案を作成し、北海道知事に要望書として提出しました。

● 生活クラブ運動グループは、27年度の介護保険制度改正が制度改悪とならないよう、北海道・札幌・石狩・小樽・北広島・江別・釧路の各議会から国へ意見書を提出したと報告がありました。

# 原発ゼロ・ 市民エネルギー委員会

子どもたちのために  
原発やめて  
明るく暮らそう



## 原発ゼロの社会をめざして

生活クラブは、1980年代に始まった幌延町での核のゴミ貯蔵施設誘致計画に対し、食料生産地北海道と核のゴミは共存できないと反対運動を開始しました。86年のチェルノブイリ原発事故以降は、その活動をさらに加速。「さようなら原子力発電の会」から「脱原発・市民エネルギー委員会」、そして2015年には「原発ゼロ・市民エネルギー委員会」と名称を変えながら、原発のない社会をめざして活動し続けています。

### 幌延町と核のゴミ

深地層研究センターでは、核のゴミを人の目の届かないところに埋め棄てようと「深地層処分」の研究が行われています。2020年度に終了するとされていた計画が、28年度末まで延長になりました。核関連施設があることで、なし崩し的に処分場へと進まないよう、研究の終了と埋め戻しを求めています。毎年、幌延サマーキャンプに参加して、町長への要望書提出や町内でのチラシまきをしています。



### 寿都町と核のゴミ

2020年11月、寿都町と神恵内村で高レベル放射性廃棄物の最終処分場選定に向けた文献調査が始まり、2025年にはNUMOが調査報告書を経産省へ提出。委員会では、学習会や寿都町でのフィールドワークを重ねてきました。また、調査を阻止する運動を続けている「子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会」の皆さんとも連携し、次段階の概要調査へ進むことに反対しています。



町民の会との交流会

### 泊原発を廃炉に

東京電力福島第一原子力発電所の事故後、2012年5月から泊原発は停止しています。それから14年、電力不足もなく私たちは暮らしています。しかし昨年12月、鈴木知事は泊原発3号機の再稼働に「同意」を表明しました。全国で原発回帰が加速するなか、泊原発も再稼働が進められようとしています。誰もが安心して暮らせる社会をめざして、道庁前でのスタンディングや学習会の開催など、再稼働反対の声をあげています。



4.26 チェルノブイリデーのパレード

10万年プロジェクトと共に

### 福島・栃木の子どものための保養支援



1人でも多くの子どもたちに1日でも長く、放射能を気にせずのびのび過ごせる機会を作るため、保養活動に取り組んでいます。

### 北海道マウコピリカ宣言



かけがえのない北海道の自然を残すために、そして「この自然があったてよかった」と子どもたちが思えるように、北海道に核のゴミの最終処分場はいりませんと、一人ひとりが反対の意志を宣言することを拡げています。



登録はこちら

# 2025年度 後期生産者交流会

生活クラブの提携生産者 11 団体と組合員が参加して、生産者交流会を開催しました。全体会では生活クラブ米の生産者を迎えて座談会を行い、その後、3つの分科会に分かれて生産者と組合員が自由に意見交換をしました。

(1/30 札幌エルプラザ)

## 全体会

### 北海道の米作り、農業を守るために

常勤理事(消費委員会担当) 多田 健介

1986年からはじまった滝川市江部乙町の米の共同購入は、今年で40年を迎えます。この間、農業を取り巻く状況は大きく変わりました。農家の7割が65歳以上と言われており、次世代への継承が課題です。一方で、生産コストは直近10年間でおよそ35%上昇。農業における所得が充分でなければ離農が加速します。実際、年5%のペースで農業従事者が減っている状況です。



埴淵義和さん「何か起きたからこうする、ではなく中長期的な視点で国の制度を確立してほしい」

発展です。1996年、この活動をともにする生産者グループ「とんぼの会」が結成されました。

全体会では、とんぼの会の埴淵会長、平澤前会長、そして卸・精米の役割を担う(株)食創の中谷さんを迎え、産地の現況と米作りのこれからについて座談会を行いました。

埴淵会長からは「組合員との交流の中で、私たちが生産するお米について真剣に考えていることを知り、嬉しく思いました」と話がありました。また、農薬等の資材価格が高騰していることについては「私のところでは、10年間で34%アップしています。

生産コストが上がる中、米価が横ばいでは生産が続けられませんと。日本の農業が進むべき方向を改めて考えて、農家が再生産可能な所得の確保も実現してほしい」と農業政策についても話されました。

飼料の自給率向上に向けて、とんぼの会では飼料用米の作付けもおこなっています。現在、主食用米と比較すると単価が低い飼料用米は全国的に作付けが減少。このような状況においても、飼料用米の生産を続ける平澤さんからは「生活クラブとの取り組みの中で続けてきました。現在の農業が抱える課題は多い。

組合員の皆さんも消費者の立場から課題を発信して、しくみを変えていってほしい。生活クラブにはそれができると思っています」と話がありました。

中谷さんからは「米の消費量



中谷宗弘さん「その年によって米の状態が異なりますが、一定の品質で精米しています」

が全国的に減っています。輸入米の流通比率も増えました。気候変動の影響を受けて米の品質維持が大変になっている中、とんぼの会の生産努力に因應するためにも利用を伸ばしていきたい」と話がありました。

1988年に当時の江部乙町農協と交わした協同組合間提携における「北海道の米作り、北海道の農業を守る」という約束は今も変わりません。生活クラブ米は農薬成分回数を慣行栽培の半分以下(8回以内)にするなど、厳しい自主基準で栽培されています。そして、それは生活クラブととんぼの会で協議して決めたこと。これからは、生産者と顔を合わせながら農業への理解を深め食へ続けることで、田んぼの維持や農業の発展につなげていきたいと思います。



**A** 夏の高温が続くなか、必ず遮光ネットを使用する、高温に強い品種に切り替えるなど、本州の高温対策を参考に様々な工夫をしていることをお聞きました。(取材/岩野)

**とんぼの会〈米〉** 夏の高温対策として、水田の水温を下げるために冷たい水を入れるなどの調整をおこなっている。後継者問題はうまくいっている人もいるが、それが原因で離農する会員もいる。



**アイビック食品(株)〈ラーメンスープ〉** 商品開発の依頼は断らない方針。機械を使って開発するが、最終的な仕上げは人の味覚で判断するため、開発部はいつも舌を鍛える努力をしている。生活クラブのラーメンスープは特に苦労した。

**知久農場〈パプリカ〉** 生活クラブ埼玉の組合員でした。北海道の自給自足に憧れて就農。夏の高温で作物の収穫時期が重なり、作業が追いつかないことも。組合員からは「道産パプリカが手に入ってうれしい」との声が寄せられた。

**合同会社 自然農業社〈玉ねぎ・ズッキーニ〉** 就労継続支援 A 型事業所として運営。夏の高温を受け、玉ねぎを春植えから秋植えに転換することも検討している。



**B** 野菜を美味しく食べきる保存術や猛暑対策、後継者問題などが話題になりました。再生産可能な価格と安全性への理解を深め、顔の見える関係でこれからも支え合っていく大切さを共有しました。(取材/敦賀)

**若狭農園〈白菜〉** 農薬を減らすと虫がつきやすく、市販品より見た目も悪くなる。選んでもらえるのか心配だったが、組合員の「生活クラブの自主基準に沿って作られたものを食べたい」の声に、自信を持って栽培していきたい。

**長沼町有機栽培研究会〈玉ねぎ〉** 2025 年産の玉ねぎは全道的に不作。市場価格が変動するなか、「消費材を食べて支えよう」という皆さんの言葉が大変励みになった。

**(株)食創〈精米・卸〉** 日本の農業で経営継承が問題となるなか、とんぼの会は比較的上手くいっていると感じる。引き継いだ若い世代が安心して農業を続けられるよう、しっかり支えていきたい。

**当別あんしん野菜生産組合〈じゃがいも・にんじん〉** 土付きにんじんは、1ヶ月以上保存するなら土付きのまま乾燥させて涼しい場所に置く。1週間以内に食べきるなら、洗ってビニール袋に入れ冷蔵庫で保管するといいですよ。

**東山農場〈にんにく〉** 猛暑で大変なことも多いが、安心安全な作物を届けたい一心で栽培している。袋に入っているカードにメッセージを書いて返却してもらえると嬉しい。



**C** 生産者からは、昨今の社会情勢や国の施策、気候変動などによる影響をお聞きました。また、組合員が増え、利用が増えることが安定した生産につながると、再確認することができました。(取材/五十嵐)

**とんぼの会〈米〉** 加工用トマトが不足していると聞き、栽培している。原料の供給がしっかりしないと生産がまわらない。作る側も意識していくが、食べる側もしっかり応援して欲しい。



**長沼町有機栽培研究会〈玉ねぎ〉** 夏の暑さで減農薬栽培が難しくなってきたが、除草剤は絶対使用しない。生活クラブの基準にあわせて、なんとか作ってきたい。

**当別あんしん野菜生産組合〈じゃがいも・にんじん〉** 食べる口(組合員)が減り注文数は減っているが、毎月注文がある生活クラブには支えられている。このような場に参加し、自分たちのことを伝える大切さを感じている。組合員が増えることにもつながってほしい。

**福山醸造(株)〈醤油・白だし〉** 人件費や物流費はもちろん、昨年の夏頃から原料費が高騰し、いつまで続くのかという感じ。今話題の消費税に関しても、国がどう動くのかを考えながら仕事している。

## 恵庭 支部

### 広がる 生活クラブの輪

重点的に拡大をおこない、新規加入が多かった千歳エリアで、支部パーティーを兼ねた歓迎会を開催しました。「みんなで歓迎したい!」と声をかけ合い14人が参加。千歳の新規組合員3人をお迎え、交流しました。

前半は、みんなでピラティスを体験(右下写真)。心も身体もほぐれた後、輪になって自己紹介をしました。グリーンシステムの実演や牛乳のやくそく便の説明なども行い、生活クラブ盛りだくさんの内容でした。お昼は持ち寄りで、ごちそうがたくさん並びました。委員が用意した『ミルク豚汁』や『牛乳ゼリー de サラダ』等5品は、各支部の牛乳レシピコンテスト料理。牛乳は飲むだけでなく食べる、という提案もでき、やくそく便に登録する牛乳宣言への申し込みもいただきました。参加者からは「和気あいあい楽しかった!」「同じ思いの方たちと交流できて良かった」などの感想があり、生活クラブは買い物をするだけでなく、組合員同士の交流も大切にしていることを伝えられました。今回のご縁を機に、つながりの輪を広げていきます。〈支部担当理事 竹森 明子〉



北ガス文化ホール (2/21)



北広島支部の組合員が講師でした♪

# 生活クラブへようこそ

支部運営委員会では、新規組合員に生活クラブをより知ってもらうためにお便りやメールなど、さまざまな方法で伝えています。そのひとつ、「新規組合員歓迎イベント」は拡大活動が一段落した1~2月に行う支部が多いです。今回は2支部の様子をお伝えします。

## 豊平 支部

### 私たちの選択が、未来をつくる

より多くの組合員に参加してもらいたいと、加入5年以内の組合員200人に招待状とチラシを送りました。さらに運営委員が手分けして電話やショートメールでお誘いし、当日は幅広い年代の方14人が集まり、うち7人が新規組合員でした。小さなお子さん連れの方もいましたが、子育て支援ワーカーべりいべりいが保育してくれたのでゆったりと過ごすことができました。

まず、クイズ形式で生活クラブを紹介しました。米や添加物、牛乳、電気、石けん、エッコロなど、テーマは盛りだくさん!消費材を食べ続けることが環境や社会を変える力につながることを伝えました。また、資源を循環するグリーンシステムやP袋回収の実演も行いました。試食として、『豚肉スライスの野菜蒸し』や『マーマレードの照り焼きチキン』『鮭と梅干しのおにぎり』などをみんなで作りました。温州みかんジュースと牛乳の試飲では、市販品とは違う美味しさの秘密を伝えました。「より消費材を知ることができた」「梅干しとマーマレード、注文します」などの嬉しい声も。消費材の裏側にある物語を知り、食べる選択が未来をつくることを実感できた、まさにウェルカムな一日でした。〈運営委員 河端 祐子〉



豊平区民センター 料理実習室 (2/22)

2025 年度

# 生活クラブ福祉基金 助成先団体紹介



「生活クラブ福祉基金」は意志ある組合員の毎月100円の拠出で、生活クラブがすすめる福祉事業・活動に使われています。また、地域で福祉活動を広げている団体に助成しています。2025年度に助成した16団体から、2団体を紹介します。

## たすけあいのでつながる地域の輪

NPO法人たすけ愛ふくろう清田 中村 則夫さん

設立して13年、誰かの「困ったな」と誰かの「助けてほしい気持ち」をつなげることで、会員相互扶助による支え合いの事業活動をおこなっています。主な活動は、日常生活支援と地域交流サロン「お茶の間カフェふらっと」、平岡イオンでの「ひらおか子ども食堂」(ふらっと)です。現在は50人もボランティアが活躍し、おこなっています。

仕事を退職してから地域でできることはないかと、福祉団体主催の講演会に参加し、そこでの出会いをきっかけに、たすけあい活動に携わるようになりました。2年後、地域の人をつなげるサロンを作りたいと「たすけ愛ふくろう清田」を設立。地域新聞や回覧板で広報を行い、住民の

協力や支援も得ながらサロンの認知を広げました。一方、この地域の影響で老人クラブ

の閉鎖が増えたこと、デジタル化の流れについていけないシニア層の孤立が深まっていることに気づきました。ネット用語がわからない、操作が難しく、怪しいメールの判断が難しいなどの悩みを抱える人が多く、相談できる家族がいない、居たとしても何度も同じことを聞くこと疎まれる等の悩みを抱えています。そこで、安心して質問できる場をつくらせようと、地域サロンでのスマホ教え合い(写真)や訪問サポートを始めました。助成金は「スマホ無料説明会」のチラシ印刷費に使用しました。講師は、回覧板を見て来てくれた元エンジニアや大学生、デジタル慣れしているシニアの方々です。

デジタル社会の新たな困りごとに対応する活動として、継続・拡大するべき取り組みだと考えています。最後に、これから地域活動をしようと考えている方へのメッセージです。「必要なものを思い描いているとチャンスがやってくるので、ぜひチャレンジしてください」(聞き手/岩野)

デジタル社会の新たな困りごとに対応する活動として、継続・拡大するべき取り組みだと考えています。最後に、これから地域活動をしようと考えている方へのメッセージです。「必要なものを思い描いているとチャンスがやってくるので、ぜひチャレンジしてください」(聞き手/岩野)

## 誰もが「3度の食事」を当たり前に

NPO法人陽向ぼっこ 儀同 一義さん

道東の白糠町で法人を立ち上げて16年になります。かつて病気で10年以上も外に出ることができなかった間、多くの方々に支えていただきました。そのときに感じた感謝を、何らかの形で地域に返したいと考えたのが設立のきっかけです。高齢化と過疎化が進むこのまちに少しでも活気が戻ればと、まずは高齢者の居場所づくりからスタートしました。そこから住民の方々の要望に応える形で、一歩ずつ活動の幅が広がっています。

1日3度の食事をとることが、人間にとって何より大切だと考えています。その思いがあつて2019年から週1回、当施設のホールで「子ども食堂・地域食堂」を開催しています。また、ひとり親家庭を対象とした弁当の無料配布も月3回おこなっています。ホールの隣には、本やおもちゃを揃えた図書室があります。食後にお子さんが遊び、お母さんは読書をしてひと息つく。その傍らで、地域のお年寄りたちがテーブルを囲み語り合う。そんな



な多世代が集う様子が、87歳になつた今でも活動を続ける原動力になっていきます。さらに、町内の塾が減り困っているお母さんたちから相談を受け、無料塾の運営も引き受けました。教育格差が将来に影響を及ぼしてはならないと考えたからです。

助成金で、テーブルと椅子を新調しました。空間が明るくなり、子どもたちも嬉しそうに食事をしています。「行動して初めて可能性が生まれる」が私の信念です。机上で話し合っているだけでは何も解決しません。これからも心強い仲間と共に、この大切な場所を守り続けていきます。(聞き手/敦賀)

# information

発行 生活クラブ生活協同組合 札幌市厚別区大谷地東一丁目4-15 TEL 011(887)8891 FAX 011(887)7226  
 発行日 2026年3月20日 編集 広報委員会 / W.C.O.P.R.A.N.E.P.O

## 2026年度 生活クラブ福祉基金 助成先団体が決まりました!

団体名	所在地	助成額(円)
NPO 法人 いしかり地域共生ラボ	石狩市	150,000
NPO 法人 CAN	札幌市	298,000
NPO 法人 子育て応援かざぐるま	札幌市	217,800
さっぽろあすびす	札幌市	173,556
NPO 法人 nicon	札幌市	91,200
ふきのとう文庫	札幌市	200,000
北海道低肺の会	札幌市	130,000
労働者協同組合 たすけあいワーカーズそよ風	札幌市	50,000
ワーカーズひなたぼっこ	岩見沢市	76,870

### 生活クラブが 出展 雑貨マーケット「Bonheur Petit」

4月22～23日11時から、札幌駅前通地下歩行空間(北3条交差点広場)で消費材のお試し販売を行います。生活クラブをアピールする絶好のチャンスです!お友だちを誘って、ぜひお立ち寄りください。チカホでお待ちしています!

本ページに記載しているイベント等については、生活クラブニュースを見て、参加申し込みをしてください。

問合せ 生活クラブ本部 TEL 011(887)8891

<https://www.hokkaido-seikatsuclub.coop/>

## 40年目の 4.26 チェルノブイリデー市民集会

いらぬ原発!変えようエネルギー政策

**日時** 4月19日(日) 9:30～11:45  
**場所** かでる2・7 4階大会議室 (札幌市中央区北2西7)  
**内容** 幌延・寿都町、泊原発、福島県の現状報告。原発運転差止め判決を出した裁判長 樋口英明氏の講演会。集会後はパレードを行います。

ニュース  
3月3週



主催 4.26 チェルノブイリデー市民集会実行委員会

## 生活クラブでつなぐわたしたちの未来

**日時** 4月18日(土) 10:00～12:00  
**場所** かでる2・7 520 研修室 (札幌市中央区北2西7)  
**内容** 伊藤由理子生活クラブ東京・連合会顧問の話聞き、生活クラブ運動について理解を深めます。託児あり。

ニュース  
3月3週

主催 組織活動推進会議

## 映画を観てナガサキを考えよう

**日時** 5月2日(土) 10:00～15:30  
**場所** 札幌エルプラザ 4階大研修室 (札幌市北区北8西3)  
**内容** 被爆体験を元に作られた映画、『はだしのゲン』『長崎-閃光の影で-』を観て、平和について一緒に考えてみませんか。

ニュース  
4月1週

主催 文化委員会



### 料理と瞑想

清田支部 川村郁

台所に立つと、私の中の余計な雑音がすべて消えていく。包丁のリズムや湯気の立ちのぼる気配に意識が溶け込み、何も考えずに没頭できる。まるで瞑想の中に身を置いているように、私はただ「作る」という行為そのものに集中している。野菜を刻む音、鍋が小さく鳴る音、消費材の香り...それらが一つの流れとなって、私を無心の境地へ導く。そこには焦りも迷いもなく、時間さえゆっくりと形を変える。料理は結果を求める作業ではなく、今この瞬間を味わうための贅沢な「わたし時間」になる。

小さい娘がいるわたしは、ある時は母であり、学校では先生であり、夫にとつての妻だが、料理をしているときは自分と向き合える贅沢な時間なのだ。気づけば、心は軽く整った体の奥に静かな熱が灯っている。無心で料理できるのは生活クラブの消費材を使っているからかもしれない。安心して使ったがてら、塩をかけるだけでもおいしいのは素材のおかげだと思ふ。

組合員のエッセイを募集します。400字程度。テーマの指定はありません。本部中瀬まで、ファックスが業務便で送ってください。



道産簡伐材を配合した紙を使用しています